

発行所
伊那市荒井
3500-1-401
上伊那教育会館内
長野県教職員組合
上伊那支部
編集発行人
中島 弘樹

県教組上伊那支部情報誌 知ってみ〜

令和7年
7月25日
第5号
職場掲示

〜第94回長野県教職員組合定期大会〜

6月7日、第94回長野県教職員組合定期大会が、松本キッセイ文化ホールにて開催され、上伊那支部からは24名の県代議員が参加してきました。

大会では、各支部が「持続可能な組合活動」を実現するために工夫して取り組んでいることや、これまでの組合活動を通して感じた代議員の熱い思いのこもった発言がたくさんありました。その一部を紹介します。

〜各支部の工夫〜

- ・うちの職場では、定期的に「お料理の会」を開催しています。ただ皆で料理を作って食べるだけの会ですが、楽しみにしている職員が多いです。
- ・組織の際の組合加入の有無のアンケートに、「理想」の回答と「現実」の回答を入れてみました。

〜直面する諸問題についての教育条件整備に向けた訴え〜

組合活動の歴史と、組合活動が何を実現してきたのかをご自身の人生と共に語ってくださった事務職員の先生がいました。組合で発言した時、「事務職員の分際で何を言っているのか」と罵られた時代があったと言います。そんなことは、今は決してありません。「時代が変わったから」だけではないでしょう。「時代が変わった」ことに加え、それが「待遇改善」として実際に生活を変えるに至るまでには、間違いなく教職員組合が権利を獲得するために奔走した長い時間があつたはずです。

不特定多数の人のために自分の時間を莫大に使って頑張ることは、誰にでもできることではありません。「教職員の未来のために」「自分のような思いをする人が現れないように」という熱い思い、切なる願いをもった先輩方が紡いできてくれたのが今の組合を形作る魂。適材適所。組合員数が増えていけば、ここで大いに力を発揮してくれる人材が現れるはず。給食当番ができない放送委員長には、放送の当番活動を最大限に頑張ってもらおう。ただし、その代わりに給食はしっかり用意しておく。人には必ずその人にしかない「出番」があるはず。価値ある組合活動を行っていくには「数こそ力」であるということ、改めて感じた県定期大会でした。



上伊那の思いを届ける

討論会の際の発言の時間はそれぞれ3分しかありません。ポイントを絞って、子どもたちのため先生方のために上伊那支部が取り組んできた活動に込めた思いが各代議員から語られました。引き続きこれまでの思いを大切に活動を邁進してまいります。

今年度の運動方針が以下のように決定されました。

長野県全15支部と専門部が団結し、下記のスローガンのもと、力強く運動を進めて参ります。

【2025年度 スローガン】

- 「教え子を再び戦場に送るな」の誓いを新たに、戦争による国際紛争の解決に反対し、憲法改悪を許さないとりくみに全力をあげよう
- 憲法・子どもの権利条約の理念をふまえ、すべての子どもたちに豊かな人間形成をめざす教育を保障し、子ども・保護者・多くの県民や働く仲間とともに、ゆとりと希望の学校をつくろう
- 日教組に結集して、県教組の統一と団結を強化し、組合員の要求実現をはかろう